

徳島県総合計画審議会 会議録

日時

平成17年9月2日(金) 13:30～15:30

会場

県庁10階 大会議室

出席者

【委員】40名中26名出席

伊勢悦子委員、今田恵津子委員、入谷喜久雄委員、岡本富治委員
金貞均委員、黒田忠良委員、後藤修三委員、近藤光男委員
榊武夫委員、桜井えつ委員、住友武秀委員、瀬尾規子委員
曾良寛武委員、中央子委員、野口優子委員、坂東忠之委員
広野みゆき委員、布川嘉樹委員、本田圭一委員、松崎美穂子委員
三牧千鶴子委員、宮城覺委員、森田陽子委員、山下勝重委員
山田真裕委員、吉田直司委員

【専門委員】

石田和之委員

【県】知事、企画総務部長、各部局次長、総合政策局長 ほか

会議次第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) オンリーワン徳島行動計画の平成16年度の進捗状況について
 - (2) 計画推進評価部会の報告について
 - (3) その他
- 3 閉会

《配付資料》

- 1 総合計画審議会設置条例、委員名簿、計画推進評価部会設置規程、部会委員名簿
- 2 「オンリーワン徳島行動計画」の平成16年度の進捗状況について
- 3 「オンリーワン徳島行動計画」進捗状況一覧表
- 4 「オンリーワン徳島行動計画」の目標水準・数値目標達成状況一覧表について
- 5 総合計画審議会計画推進評価部会報告

議事録

1 開会

2 あいさつ

飯泉知事からあいさつ

3 議題

(1) オンリーワン徳島行動計画の平成 1 6 年度の進捗状況について

配付資料 1 から 4 に基づき、事務局から説明を行った。

(2) 計画推進評価部会の報告について

後藤部会長が配付資料 5 に基づき、報告した後、事務局が補足説明した。

4 意見交換

(委員)

総合計画についての評価部会を設置していただき、第三者的な立場から評価をしていただいたことは、非常に大きな前進であり、知事さんに感謝したいと思う。

ただ、この時間が 1 時間半で全部評価するというのは、ちょっと時間的に無理ではなかったかという気がするので、考えられる時間を与える意味でも 2 回に分けてするとか、1 回をもう少し長くするかすればいいのではないか。

(委員)

資料 3 の 4 6 P 「男女共同参画推進拠点の整備」、私たち女性の夢であった拠点ができるということで、非常に感謝している。

1 8 年度の秋ぐらいにオープンするらしいが、一応ハード面はできたということで、ソフト面の実施をドンドン進めて行っていただきたい。

ソフト面の中身については、運営実行委員会みたいなものを作り、実際に動いていくというのを 1 年前からしたらどうか。

(委員)

観光リピーターについては、観光を終わって出身地へ帰られた後のフォローを何かされた方がいいのではないか。例えば、8 月の阿波踊りの観光が終わって、できれば 1 週間後ぐらいにメール配信等でプラス のアドバイスができればもっと徳島のファンは増えていくのではないかと思う。

防災の講演会には多くの人が集まり、県民のニーズが高いと思うので、もっと P R をされた方がいいと思うが、ただ講演会に来る方の年齢が高すぎると感じた。

2 0 代、3 0 代というと子育てで忙しかったりしてなかなか講演会にも参加できないと思うので、例えば、学校の運動会の種目の中で、何か防災と日常生活に繋がりのあるようなものを教育委員会から提案されたらいいのではないかと思う。

また、評価 1 , 2 , 3 については、達成された後の事ではなくて、達成するために何をしたかということが大切なのではないかと思う。

(委員)

資料3の36P「特別支援教育コーディネーター養成研修の実施」に関連して、総合教育センターが開所されたが、県の中心部にある学校政策課の方と実践の場である総合教育センターの方との意思の疎通、コミュニケーションはうまくいっているのか。

また、生涯学習支援において各市町村で問題がでてきた場合は、総合教育センターで対応してもらえるのか。

44P「男女共同参画の推進」の中で、平成17年度取組予定として、本県の実情に応じた「配偶者暴力防止等基本計画」の策定にあたっては、男女共同参画会議で調査・審議を行うとあるが、先ず保護して、支援して、その後自立するというような、より具体的内容を持った基本計画を早急に策定していただきたい。

(教育委員会)

総合教育センターの役割としては、できるだけこちらの教育委員会の事務局の学校政策課、その担当と連携を図りながら、實際上、センターの事務局で政策を実現していくというもので、できるだけその間の意思疎通ということについて努力しているが、より厳密に定期的な形で連携を図って行けるように取り組んで参りたい。

(委員)

県では公共施設のアスベストの使用状況についての公表をどのように考えているのか。学校では、給食施設にアスベストが使われているか、調査されているのか。

「健やか子育て環境づくり」の中で、非正社員の女性は育児休暇が取りにくい現状だと思うので、非正規で働いている方も育児休暇を取りやすい環境に、徳島県もしていただきたい。

「とくしま安心ライフの実現」というところで、医療関係については、郡部でも中心部と同じような医療が受けられるようなシステムに是非ともしていただきたい。

(県民環境部)

公共施設等のアスベストの問題については、現在、県立施設におけるアスベストの使用状況について調査中であり、その調査の段階においても危険な状況等を発見した場合には直ちに公表することとしている。

(教育委員会)

学校の給食施設についても、壁等の吹付けも合わせ、現在調査中である。文部科学省の調査は11月15日締め切りであるが、早急に調査するという事で、8月いっぱいまでの状況については、とりあえず取りまとめる予定で、発見されれば、できるだけ早くその対策を講じていきたい。

(委員)

「ユニバーサルとくしまの実現」のところで、人権を保障するために各市町村では、「部落差別撤廃人権擁護条例」という形で条例が作られているんな事業が進められてきたが、最近は「人権条例」という形に移行していく市町村が増えてきた。

全ての人の人権を擁護していくために、できれば「人権条例」というものを作って

いただく中で、こういったものをなお推進しやすい状況作りができればありがたい。
(委員)

「安全・安心とくしまの実現」の「家屋における耐震診断」について、公立小中学校施設の耐震改修状況調査(文部科学省)においては昭和56(1981)年以前の耐震診断実施率は全国平均56.3%に比べ、徳島は約50%(48.6%)だが、耐震化率は全国平均24.6%に比べ、徳島は5%以下(3.9%)と非常に低くワースト4位である。

公立学校というものは、地域で何か大きな災害が起きた時に非常災害時の避難の場所でもあり、安全性の確保というものが非常に重要なので、学校関係の(耐震化率の)目標値や今後の計画は設定値の数値目標が低いのではないかと思うので、より重点的にもう一度見直しをやっていただきたい。

また、吹付けアスベストを使っている建物のこれからの維持管理と飛散防止というものが大きな問題であり、今後、アスベストが使われた建物が解体される場合に、住民の健康を守るという側面から、行政ではどういう姿勢を持って取り組んでいくのか伺いたい。

(県民環境部)

アスベストの民間施設に対するアスベスト対策については、先ず早急に解体業者に対して除去工事に必要な対策について、周知徹底する会を設けたいと考えている。

また、住民の健康を守るという観点については現在検討中であり、早急に住民の不安が解消できるような方策を講じていきたいと考えている。

(委員)

医師の偏在については医師会内部でも十分検討されつつあり、郡部の医師不足に関しては、県と徳島大学病院と医師会とで何とか早く善処しないといけないということで話はすすんでいる。

前回のこの会で「女性医療・性差医療」について要望をしたが、残念ながら一言も触れていただけていないので、取り上げて欲しい。

女性と子どもが元気でないと、この少子高齢化の社会はとても切り抜けることはできないと思うので、女性医療を充実してほしい。

(委員)

資料3の36P「きめ細かな指導体制の整備」については、「小学校1・2年生への35人学級の導入」が実施され、本当にありがたいと思っているが、中学年にもできるだけ35人学級を広げていただきたい。少人数指導の加配教員については、学校の裁量で少人数学級に配置できるように、文部科学省に要望して欲しい。

また、スクールカウンセラーについては、保護者のカウンセリングの希望が多いので、配置の充実をさらに進めて行っていただきたい。

「特別支援教育コーディネーター」については全学校に配置となっているが、学級担任をしながら特別支援を要する子どもたちのコーディネートはなかなか難しく、もう少し人的な配置がなされるとありがたい。

(委員)

高齢者の単身者が非常に増えており、安心・安全とくしまの中で災害があった場合、どうやって高齢者の方を避難所まで連れていけばよいのかといつも心配しているが、地域のみんで考えていかないといけない問題と思う。

公立の小学校などが避難所に取り扱われて、国立の学校は(地震災害の)避難所に入っていないというのは腑におちないので、ぜひ国立の学校も避難所にしていただければ、随分高齢者も助かると思う。

また一方、地域では一人親家庭が非常に増えており、どうしたらこれに歯止めがかけられるのかという面についても非常に心配している。

(知事)

今の点は、少人数学級の文部科学省のしぼりと共通しており、県、市町村の施設については、県の中で決められるが、その一方、国の施設にはまったく県の権限が及ばないし、加配教員の配置についても国が定めている。

そこで、財源の苦しい中、35人学級の導入やスクールカウンセラーの配置については、県職員の給料をカットする中で、公的ワークシェアリングの財源を振り向けているが、現在の義務教育の国庫負担金という形である以上は難しい部分があり、努力の面についても限界はあるが、文部科学省にしっかりと要望してきたいと思う。

(委員)

「環境首都とくしま」の下水道の推進で、実は徳島はオンリーワンではなくて全国でワーストワンである。これは県だけがやることではないので、なかなか難しいとは思いますが、下水道の普及については長期的な観点でもう少し力を注いでいかなければいけないのではないかと。

また、「いやしの国とくしまの実現」のスポーツの振興では、平成5年の国体時に比べ、今は全国で45,6位の順位であり、これも一気にはいけない話ではあるが、もう少し具体的にスポーツの水準を上げていくための施策が進められていくべきではないかと。

さらに、少子高齢化が進んでいって、平成42年には徳島県の人口は13万7千ぐらい減り、今80万を超えている人口が60万台になるといわれているが、30年先の徳島県がこうなるということを見据えた、来年、再来年の施策の展開が要るのではないかと。

(委員)

県民活動プラザについては、早速土曜日夜に会議室が使えるように対応していただきありがたいと思っているが、普通の日についても会議室は使えるが、コピー機が使えないので、何とかやり繰りをしていただいて、この3月までのような元の利用形態に戻していただくと尚ありがたい。

防災については、災害弱者のことをもう少し視点に取り入れた活動がなされるようにして欲しい。県では「災害時要援護者支援マニュアル」を作っているが、例えば、防災センターに災害弱者の視点を取り入れた展示をするなど、もう少し分かりやすい

形での普及啓発をしていただきたい。また、耐震住宅の改修が本当に進んでいないということで、より一層の普及啓発に努めていただきたい。

「徳島県ひとにやさしいまちづくり条例」については、評価部会でも申し上げたが、中身が古いので、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた条例にしていきたい。「徳島やさしいまちづくり賞」という建物の賞についても、古い条例に即したチェックで賞を選んでも仕方がないと思うので、もう一度中身についてご再考いただきたい。

(委員)

「はばたき」がアスティとくしまに整備予定の男女共同参画推進拠点に移転するのに伴い、県立の子育て支援センターが欲しいとは思いますが、無理ならば、託児室のプレイルームの隅にでも作って欲しいとお願いしている。「はばたき」の整備については) 1年前から運営委員会を設置していただいて、準備に取りかかっていたきたい。

なぜかという、板野の総合教育センターには絶対、託児ルームがあると思込んでいたのに、この時代に無くて、先生がおもちゃやマットを会議室に持ち込んで託児ルームに変えているからである。

また、砂場の庭もついた立派なプレイルームはあるのだが、障害児の機能訓練のためのもので、一般には開放されていないので、障害のある子供たちが訓練の合間の時間でもいいから、健常児と自然に交わるようにプレイルームの解放をお願いしたい。

(委員)

評価全体についての意見であるが、今回の数値だけでは、その評価が非常に難しいので、「環境」「人権」「協働」「県民満足度」「事業経費」等の観点も含めた、立体的な(多面的な)評価指標を提示していただければ、トータルでその事業をもっと推進すればいいのか、ちょっと見直した方がいいのではないかと判断しやすくなるのではないかと。

(委員)

「とくしま地球環境ビジョンの展開」については、資料3の18Pに「平成22年度までに温室効果ガスの排出量を10%削減する。」ということだが、単に省エネとかいうだけではなかなか達成が難しいと思うので、エネルギーを使ってもそれが排出ガスをゼロにするようなもの、バイオマスを提案したわけである。

風力発電というのは非常に限られているということで、軌道修正を早めにやっていただいて、バイオマスの推進検討委員会を設置して具体的に積極的に推進していただきたい。そして、徳島がバイオマスのメッカみたいになると、徳島の産業も発展するし、地球環境にもいいということで、是非ともお願いしたい。

また、オンリーワンの行動計画の中で、うまくいっていないという面については、評価部会ではあまり議論がされていないようなので、評価部会でもう少し時間をかけて評価をしていただきたいと思う。

(事務局)

評価部会の時間設定に関しては、できるだけ時間を長く取るのがよいとは思いますが、

やはり本当に集中して議論できる時間というのは限られており、事前に資料を送って十分目を通していただいて（審議会に臨んでいただくことで）時間の不足をカバーするという作業は我々なりに努めているので、ご理解をいただきたい。

（委員）

資料3の38P「社会性を育む職業教育の推進」というところで「ニート問題（若年者の無業化）」についても18年度は盛り込んでいただきたい。

（委員）

この達成度の評価は大変分かりやすくいいと思う。ただ、観光客の入り込み数はもっと多く目標設定して欲しい。

文学書道館については観光客の誘致を進めているが、寂聴先生が向こうで講義をなさると大勢の方が集まったという実績がある中で、場所に問題あるのかと思うぐらい浸透してくれない。暴言と思うが、文化の森のあたりに集約するとかは無理だろうか。

（委員）

民生児童委員のことだが、個人情報保護法ができて大変活動がしにくくなったので、徳島県に入った、顔写真入りの名札を付けて訪問をしていきたいと考えているので、是非ご検討をお願いしたい。

（委員）

保育所の延長保育の問題について、昔は5時半までだったが、今はほとんどの所が月～金曜日は19時まで可能となっているが、土曜日に関しては12時半までという所が多い。

今は昔と違って、土曜日お昼で仕事が終わるところは逆に少ないと思うし、働き方も多様化しているので、夜の遅い時間や土、日曜日も働くお母さんがたくさんおいでと思う。せめて、土曜日だけでも、月～金曜日と同じ時間帯で延長保育できるような形にしていれば、多くのお母さん方が助かるのではないかと思う。

5 事務局説明

審議会の会議録の公表については、会長と協議の上、公開する。

次回の審議会は、来年2月中旬頃に開催を予定し、オンリーワン徳島行動計画の最終年度になる平成18年度版の策定に向けた、改善見直し案についてご審議いただきたいと考えている。

6 閉会